

## 令和5年度 卒業式

令和6年3月1日(金)に、普通科第75期、理数科第54期の卒業式が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のための制限が完全になくなり、コロナ禍以前に行われていた合唱隊によるお祝いの演奏が5年ぶりに復活しました。明るくたくましく北高を引っ張ってくれた224名の卒業生が、晴れやかな表情で卒業する姿を、在校生・保護者・教職員が見送りました。卒業生のみなさんの活躍を、在校生・教職員一同期待しております。



## 北高生の活躍

大会名 第77回全日本学生音楽コンクール全国大会  
開催日 11月29日(水) 会場 横浜みなとみらいホール・小ホール  
出場 門脇 早紀(3年)  
結果 声楽部門 高校の部に出場し見事、第1位を受賞しました。



声楽部門 高校の部での全国第1位受賞は、島根県で初めての快挙です。本当におめでとうございました。そして、門脇さんは3月18日(月)から開幕する第96回選抜高等学校野球大会、開会式で国歌独唱の大役が控えています。素晴らしい歌声を甲子園の地で響かせてくれると信じています。自分の夢を叶えるためにこれからも頑張ってください。応援しています。

今年度は北高生の読書感想文が県や全国でも入賞し、良い成績を収めましたので報告いたします。

- 「共感で言葉を紡ぐ」 17R 片岡瑞彩  
第67回全国学芸サイエンスコンクール読書感想文の部 金賞(第一席)
- 「出口のない海」 25R 伊藤真菜  
第69回青少年読書感想文全国コンクール県審査 自由読書の部 最優秀賞
- 「『知ろう』という気持ち」 11R 勝部帆風  
第68回青少年読書体験記コンクール県審査 最優秀賞
- 「これからの『食生活』について考えた」 15R 小倉果穂  
ゆめほたる環境読書感想文コンクール2023 審査員特別賞
- 「アートを見る理由」 27R 石川美咲  
第69回青少年読書感想文全国コンクール県審査 自由読書の部 優秀賞(第三席)

## 頑張っています！ 北高の探究活動

### 第9回 高校生国際シンポジウム 2月21日(水)~22日(木) 鹿児島市 宝山ホール

このシンポジウムは、全国で進められている課題研究、探究活動の発表会および審査会です。全国の高校生が、人文社会学の研究から自然科学や数学、ビジネスの分野までの幅広い分野の研究成果を発表するほか、基調講演やパネルディスカッション、研修会、参加者対象の交流会、進路に関する座談会などのプログラムによる大変充実した学びの場です。

本校からは、総合的な探究の時間を通じて研究を深めた2年生4名の生徒が書類審査を通過し、会場にて発表をおこないました。藤原颯太さんは、ポスター部門(産業・地域振興分野)の発表において優良賞を獲得しました。



【発表者及び分野・発表テーマ ※いずれもポスター部門に参加】

- <人文科学・教育分野>
  - ・絵画鑑賞から読み解く社会 早川 和花さん
  - ・イヴァン・ツルゲーネフ 「初恋」に見られるジナイーダの姿 松本 遥さん
- <医療・福祉・防災分野>
  - ・法律・条例にみる手話言語の現状 勝部 帆風さん
- <産業・地域振興分野>
  - ・街の性格は「小字」にあり 藤原 颯太さん



(大会参加生徒の感想より)

私は総探(総合的な探究の時間)を通して自分から学ぼうとする姿勢の大切さを学びました。誰かに言われたからやる、これは評価が高そうだから、という理由ではなく、自分の興味のあること、関心のあることを見つけてそれに向かって自主的に研究を進めていくのが大切だと感じました。



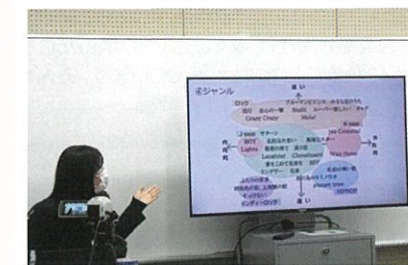
### しまね探究フェスタ2023 2月5日(月) 会場:島根大学松江キャンパス

このフェスタは、県内の高校生が集い、探究学習の学びを互いに共有し合うことで、探究活動の楽しさを知り、学びに向かう意欲を喚起するイベントです。本校からは2年生2名が参加しました。

- 【発表者及び発表テーマ】
  - ・本屋大賞から見る現代社会 渡部希乃花さん
  - ・性格と音楽の好みの関わり 吉田 心春さん

(大会参加生徒の感想より)

私は総探(総合的な探究の時間)を通して自分から学ぼうとする姿勢の大切さを学びました。誰かに言われたからやる、これは評価が高そうだから、という理由ではなく、自分の興味のあること、関心のあることを見つけてそれに向かって自主的に研究を進めていくのが大切だと感じました。



# 転任者ごあいさつ

## ◆◆◆ 校長 木原 和典先生 ◆◆◆

平成12年4月から5年間勤務して以来、ほぼ20年ぶりの北高でした。当時と同じように、生徒の皆さんがひたむきに努力する姿に励まされ、支えられました。生徒の皆さんに望むことがあるとすれば、「高校時代にしかできないことに打ち込んでほしい」ということでしょうか。

高校を卒業してからでもできるようなことはちょっと置いておいて、今しかできないこと、それは勉強かもしれませんし部活動かもしれませんが、とにかくそれに打ち込んでほしいと思います。

2年間本当にありがとうございました。

## ◆◆◆ 村川 紅実 事務長 ◆◆◆

能楽で音楽を担当するのは、「囃子方」と呼ばれる、笛、小鼓、大鼓、太鼓の能楽師です。囃子方は、単なる伴奏ではなく、謡や舞を囃し立てることが役割です。

生徒の皆さん、先生方の活動を、事務部の業務を通して「囃し立てる」ことができたかどうかかわかりませんが、これからも、北高の皆さんのご活躍を願っております。

## ◆◆◆ 地歴・公民 磯田 隆一郎先生 ◆◆◆

5年間の北高勤務でした。少し意地の悪い質問をします。「みんな、何のために『勉強』していますか？」 進路の決まった卒業生と話をすると、なかには大学入試が終わった途端、それまで懸命に頭に入れたはずの知(識)が、きれいさっぱり消去されている人がいることに気づかされます。「憶えるの、大変だったもん」、「少し頭を休ませたいもん」。それはそうだと思います。一旦大量に(無理やり?)「詰め込んだ」ものをしばらくフリーズさせたい気持ちはわかる。でも、ちょっと待て。それって、「合格するために詰め込む」「憶えるために憶える」ことの結果であって、知(識)が知(識)になっていないことの証ではないのか? ところで、商品は消費されるもので、それ以上でも以下でもありません。消費によって何らかの便益を手に入れることはできるが、消費された後にはほとんど何も残らない。みんなが学校で学んでいる知(識)は商品ではありません。従ってみんなは、少なくとも学校では消費者ではありません。思想家の内田樹さんは、「真の意味で『学ぶ』とはどういうことをいうのでしょうか」と質問されて、『『学ぶ』とは自分自身を刷新してゆくことです。学んだことによって学ぶ前とは別人になることです』と答えています。みんな、先は長いぜ。がんばってください。

## ◆◆◆ 英語 大國 晴吾先生 ◆◆◆

北高で9年間勤務させていただきました。人生の4分の1ほどの時間を過ごしたことになります。お世話になった卒業生、在校生、教職員、保護者、そして地域の皆様、本当にありがとうございました。みなさんは北高が好きですか? 私は大好きです。もちろん、最初から好きだったわけではありません。でも、見方を変えるときっと前向きになれるはずですよ。みなさんも、次のような気持ちになったら、ぜひ「下から上」に向かってください。

I hate this high school  
I will never ever think that  
I miss Kitako so much  
your destiny  
decides  
your behavior  
you cannot do anything  
it's not true that  
you can always enjoy your life

今年度を終えるにあたり、紹介する職員が異動することになりました。生徒保護者の皆様に挨拶を申し上げます。

## ◆◆◆ 教頭 渡部 一哉先生 ◆◆◆

私の北高勤務は三度(昭和・平成・令和)、合計13年でした。時代は違いましたが、何らかの形で社会の為に役に立ちたいという北高生の思いは変わっていないと感じました。一方、北高以外の世界に目を向けると、悲しいことですが、戦争・災害・事故で亡くなったり苦しんだりしている方がたくさんあります。個人的には思うようにゆかないことも多々あるかとは思いますが、比較的平和な島根で安全に暮らしていることに感謝しつつ、社会そして自分の為、精一杯高校生活を送って欲しいと思います。北高生の皆さん、期待しています。

## ◆◆◆ 国語 井口 環先生 ◆◆◆

前掃除大臣からお願いします。皆さん、掃除に更に全力で取り組んで下さい。きっと周りや自分自身が変わります。ここ北高で高校生との頃と併せて周りの人たちや教職員の皆さんに全力で支えていただき、随分お世話になりました。ありがとうございました。高校生の時の部活の終わりに毎日歌われた「松江北高ここにあり!」を本舞台で歌う敗者復活戦は叶いませんですが、その夢は後輩の皆さんに託します。皆さん、お元気で!

## ◆◆◆ 美術 吉野 瑞生先生 ◆◆◆

私にとって北高での2年間は、短いながらもとても濃密なものでした。北高生の皆と一緒に過ごして感じたのは、高校生という時期は様々な可能性に満ち溢れているということです。特に生徒会や部活動などで、自分たちのやりたいことを追求している姿を目にすると、やろう!と思えば何でもできる、と思わせてくれるパワーを感じました。そして、これまでやったことがないことでも、意外とやってみたらできた、と軽やかに乗り越えていく姿から、頑固な自分は目の覚める思いを何度もしました。これまでこうだったから、これからもこうだろう、と思わずに、いつでも新しい可能性を探しつけてほしいと思います。

私も4月からは全く違う環境に飛び込む予定ですが、私も皆さんのように新しい可能性を探し続けていきたいと思っています。北高生の皆さん、そして教職員の皆さん、2年間ありがとうございました。

## ◆◆◆ 国語 玉木 愛先生 ◆◆◆

北高で過ごした9年間、たくさんのお会いがありました。共に学び、共に笑い、涙しながらやってきた生徒のみなさん、みなさんとの出会いは私の一生の宝です。ありがとう。様々な場面で私たちを支え、見守り、助けてくださった先生方、みなさんのおかげでこどもで務めることができました。ありがとうございました。今、お別れに際し、「ささいな別れの中にも永訣が兆している」という言葉を思い出します。9年間の中では突然の悲しい別れも経験しました。いつ別れがやってくるかわからない。だからこそ、今目の前にある出会いに感謝し、一緒に過ごしてくれる家族や仲間を大事に、これからも生きていきたいと思っています。

## ◆◆◆ 養護 山崎 すえみ先生 ◆◆◆

毎朝、松江城とお堀を眺めながら出勤し、学校へ到着すると早朝から廊下や教室で学習に励む生徒の姿を見て「今日も一日頑張ろう!」とパワーをもらい続けた9年間でした。年月が流れその間、少しずついろいろなことが変わっていきました。新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事の中止、縮小。部活動や日常生活にも大きな影響が出ました。また、これまで経験したことのない猛暑など、体調を崩し保健室への来室も増え心配しました。そんな中でも、やるべき時には全力で取り組み、学習、学校行事、部活動と一生懸命な姿に「北高生ってすごいなあ」と感動していました。素直で熱心な生徒、教職員、保護者の皆様と北高で過ごせたことに感謝します。9年間ありがとうございました。皆様、無理をしないように、心と体を大切にお元気で。さようなら。

## ◆◆◆ 事務 水津 準さん ◆◆◆

4年間、松江北高校の事務室で勤務させて頂きました。仕事柄、直接的に関わる場面は少なかったですが、それ故に様々な用事で事務室を訪ねて来られたり、廊下ですれ違ったりする場面を皆さんとの貴重な関わりの機会と捉え大事にしてきました。明るく元気な挨拶、廊下から聞こえてくる友達や先生方との楽しそうな会話、廊下の机で真剣に学習に励む表情。皆さんの存在が私の仕事の支えになっていた気がします。皆さんの学びや生活を支える仕事に携わりながら、皆さんや先生方と共に同じ屋根の下で仕事ができただけを心から誇りに思います。ありがとうございました。

## ◆◆◆ 数学 新宮 由巳先生 ◆◆◆

昭和61年4月から38年間の教員生活を終えることにしました。今年60歳となり定年退職と思っていたところ、定年が1年延長となり、これを機に自分の人生を考えた結果、新しい人生を歩んでみようかと決断しました。38年間の教員生活は数学、バスケット、進路指導、担任等すべて楽しく充実していました。特に担任は28回、バスケットにも38年間関わりました。毎年新しい生徒と出会い、短期間で劇的に変化するみなさんの姿を見ることをずっと楽しんできました。自分に合った最高の職業だったと思います。そのため、仕事が自分の中心になり過ぎました。もっと優先しなければならなかったこの存在を今更ながら考えようになりました。そのためには、大きなリスクがあっても決断しなければならぬ時があるのだと思います。遅ればせながら私は今がその時だと思いました。皆さんも自分の人生を本気で選択してください。その選択がリスクを伴っても勇気を持って一歩踏み出せばいいと思います。常にコンディションを整え、全力を尽くし、自分の人生を自分で決断しましょう。

今後みなさんとは違う形で出会えればと思います。今まで出会った生徒のみなさんや先生方にお礼を言いたいです。楽しい38年をありがとうございました。

## ◆◆◆ 数学 正村 修先生 ◆◆◆

2年前に松江北高校を最後に37年の教員生活を終えて退職しましたが、引き続き2年間勤務して、このたび本校を離れることになりました。この間、数多くの生徒たちや先生方に助けられて何とかやってきましたが、最近は何年をとったこともあり、いろいろとご迷惑をおかけしていません。ではないかと申し訳なく思っています。

松江北高校では意欲的に勉学に取り組む生徒たちに恵まれ、楽しく授業をすることができました。授業や教材の研究を通して私自身もいろいろと学びを深めることができました。部活動は囲碁部の顧問でしたが、全国でも活躍できる生徒がいてくれたおかげで、この7年間で全国大会に12回、中国大会に6回も出かけることができ、北は宮城から南は鹿児島までいろいろなところに行きました。最後の1年は高文連囲碁専門部の委員長になり、大会運営を通していろいろなご縁ができました。このような素晴らしい環境のもとで勤務できたことに感謝しています。

4月以降も、健康第一でもう少し今の仕事を続けます。また機会があれば松江北高校で勤務したいと思っています。7年間ありがとうございました。皆さんもお元気で。

## ◆◆◆ 地歴・公民 篠森 好先生 ◆◆◆

とても充実した4年間でした。4年前に大学を卒業した私にとって、日々の授業、担任、顧問、その他様々な仕事のすべてが初めての経験で、特に1年目は緊張してうまくいかないことが多く、教員に向いていないのかなど考えることがありました。それでも、幼いころからの夢だった教員になってよかったと今は心から感じています。例えば、失敗して落ち込んだ時でも、生徒の皆さんが見せてくれる授業中のキラキラした目や部活動のパフォーマンスなどからは、とても元気をもらい力が湧いてきます。また、アドバイスをくださる先生方にも支えていただきました。次第に「向いているか」より、この仕事を「好き」という気持ちや失敗を恐れず全力で取り組むことの方がずっと大事だと気づくことができました。北高の皆さんと一緒に過ごせたことを本当に感謝しています。

もし、やりたい事が見つかったら、それに向かって一生懸命取り組んでください。実現前から、または実現直後に向いているかなんて誰も判断できないと思います。私もピンチに直面してもこの仕事を好きな気持ちを忘れないで、日々精一杯頑張ろうと思います。4年間ありがとうございました。

## ◆◆◆ 理科 渡部 裕通先生 ◆◆◆

8年前に赴任したとき、高校での学習から飛び出した広範囲な学び、例えば、自ら立ち上げたプロジェクトに取り組んだり、校外の高校生向け講座に参加したり、科学の甲子園など各種コンテストや資格試験に挑戦するなど、主体的に学んでいる生徒の多さに驚きました。

挑戦している先輩たちを間近に見ることは、後輩が自分もチャレンジしようという思いを実践に繋げてくれる大きな力になり、それが北高の伝統・財産なのだと感じました。その伝統は「知性の空は高くひろく」と校歌にあることから脈々と伝わってきたものなのでしょう。後輩たちへ大切に伝えていってください。

それから8年、自然科学部、理数科課題研究、探究活動など挑戦しているみなさんをサポートすることになりました。高い目標に向かって挑戦すると、成功は稀で、失敗の連続になります。そのとき本気で試行錯誤することにより、みなさんは成長し、経験は一生の宝物になるのです。ぜひ、いい失敗をたくさんして成長してくださいね。

8年間、いい思い出をたくさんもらいました。ありがとう。

## ◆◆◆ 数学 吾郷 治正先生 ◆◆◆

早いもので、北高に赴任して5年がたってしまいました。その間、担任はもちろん島根県高文連事務局の仕事や教務主任など、今までの学校ではできなかった経験をたくさんさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。吹奏楽部のみんなとコロナに苦しめられながらもたくさんの演奏会ができたことも忘れられない思い出です。北高のみなさんのますますの活躍を期待しています。

## ◆◆◆ 英語 清水 友花先生 ◆◆◆

松江北高校に勤務すると知った時、とても不安だったけれど、温かく迎えてくれた生徒のみなさんや先生たちのおかげで、この1年をなんとか終わることができました。私が高校教員になったのは、高校時代が楽しくて、もう一度経験したい!と思ったからでした。自分の時と変わらないこと、全然違うこと、みなさんから教えてもらってとても楽しかったです。ありがとうございました。新たな変化を楽しみながら、これからもお互いに頑張っていきましょう。

## ◆◆◆ 地歴・公民 野田 侑佑先生 ◆◆◆

6年間松江北高校ではお世話になりました。多くの先生方、生徒の皆様に出会うことができた貴重な6年間でした。さて、私は世界史を教えています。現在、世界は目まぐるしく変化し、困難の中にありながらもそれを克服しながら成長しています。その背景には、世界が歩んできた歴史が大いに影響していることを、世界史を通じて学ぶことができたでしょうか? 紛争や疫病、戦争、今まさに起こっている困難なできごとは歴史なしには語れません。「賢者は歴史に学ぶ」とはドイツ帝国の宰相ビスマルクが述べた言葉です。(様々な解釈がありますが...)僕はこの言葉を、世界史を教える上で大切にしました。そしてもう一つ、「Plus Ultra」=「さらに前進」という意味です。アニメ「ヒーローアカデミア」で主人公が通う高校の校訓として使われて有名になりましたが、もともとはスペイン国王カルロス1世(神聖ローマ皇帝としてはカール5世)のモットーとして使われた言葉です。ぜひ今後も「歴史に学び」ながら、「さらに前進」してください。ありがとうございました。

## ◆◆◆ 国語 池田 奈穂先生 ◆◆◆

あつという間の4年間でした。この4年間は大変なことも多かったですが、みなさんの笑顔や物事に真剣に取り組む姿に励まされて、日々元気に前向きに頑張ることができました。「常識とは18歳までに身につけた偏見のコレクションでしかない(アインシュタイン)」という言葉があるように、高校生活というのはみなさんの人格形成の最終段階にあたるとても大切な時期だと私は考えています。高校を卒業するまでに一生懸命勉強すること、多くの人と出会い関わり合うこと、本気で物事に取り組むことを経験し、人としての器を大きく大きく広げていってほしいと思います。高校生活はここを逃すともう戻ってくることはありません。そんなかけがえのない時間を全力で謳歌してください。先の見えない不安な中でも、失敗するのが怖くても、それでも自分が達成したい目標があるならば、自分を信じて、思いっきりやってみてください。遠くからではありますが、みなさんのことをいつも応援しています。本当にありがとうございました。

## ◆◆◆ 事務 道下 陽菜さん ◆◆◆

私は3年前に松江北高校に赴任し、初めての職場ということもあり、不安な気持ちいっぱい北高の坂を登っていた日々を今でも鮮明に思い出します。しかし、先生や生徒の皆さんが温かく、楽しく過ごすことが出来ました。いつも生徒の皆さんの声が聞こえて、掃除の時間があり、下校の放送があるのは学校だからこそで、その日常が校務になってしまうのはとても寂しく感じます。3年間で先生方にいろいろな場面で助けていただき、生徒の皆さんの存在に毎日エネルギーをもらっていました。

私は高校時代、恩師に言われた「置かれた場所で咲きなさい」という言葉が好きで今でも大切にしています。自分の選択に不安になることがたくさんあると思いますが、どうかその選択を正解にしていってください。3年間ありがとうございました。